

重なる カタチ

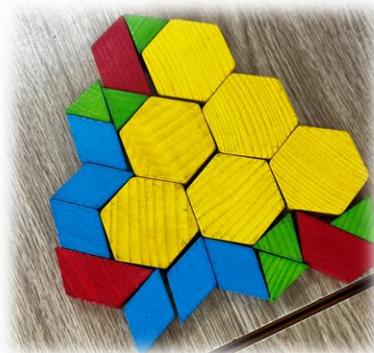
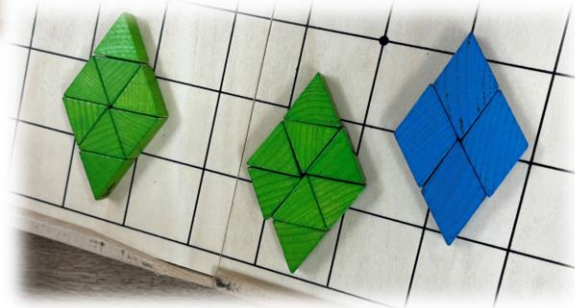
作成日：2024/10/25
対象児：かえで組5歳児
作成者：小城亜矢子

ねらい：形の特徴に気づき、イメージしながら遊ぶことを楽しむ。



お花畑を
作ったよ

形が同じに
なった!!



うまくつながらん…



面白い形ができたよ



振り返り：

部屋にあったいろいろな形の木のおもちゃを色で分けたり、繋げたりして遊んでいた子ども達。そのうち「お花みたいになった！」と形を組合すといろんな形が出来上がることに気がきました。組み合わせ次第でいろんな花や動物を作り見立て遊びを楽しんでいると、「あれ？先生！発見!! 形が違うのに、同じ形になったんだけど!!」と気付いた子がいました。「なんでなん？」と不思議に思った子たちが、形を見比べてみると「あ！こことこの長さが一緒!」「これとこれを合わせたら角が揃った!」と自分たちなりに形の特徴を発見しました。そのことに気付いてからは「これはこれの半分じゃな」「さらにこれはその半分」と発見の広がりが面白く、形の不思議に魅了された子ども達。違う形で同じ形を作ってみたり、形の特徴を生かして複雑な形を作りだしたりして遊びが深まりました。つい「こうしたらこうなるよ」とヒントを与えてしまいそうになりますが、ここではじっくり考えている子ども達の姿があったので、私はあえてヒントや答えを出さず見守ることにしました。自分で考える・発見する・友達や保育者と共有することで、よりこの遊びが深まったのではないかと思います。レゴブロックもそうですが、『半分と半分を繋げると1になる』とか『半分の半分の2つと半分の1つで1になる』とか、おもちゃの中には算数（ここでは分数）につながるような仕組みがあるんだなと私も改めて気付かされました。指と頭をしっかりと使って考えながら遊ぶことで、自然と数学的な考え方が身に付く遊びの面白さにハマった子ども達でした。（思考力の芽生え、数量や図形などへの関心・感覚、自立心・豊かな感性と表現）